

Q-U を活用した児童生徒理解

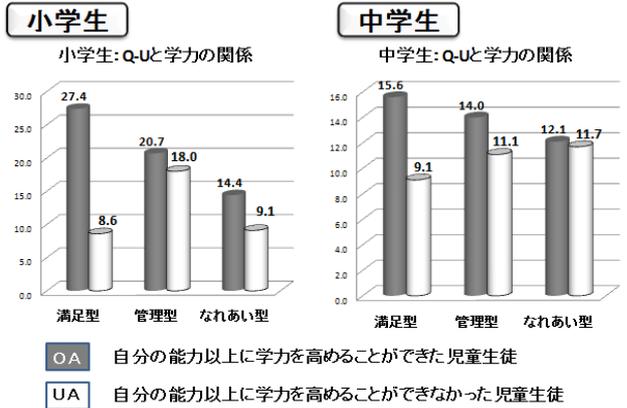
高知県心の教育センター 今西 一仁

1. Q-U 実施のねらい

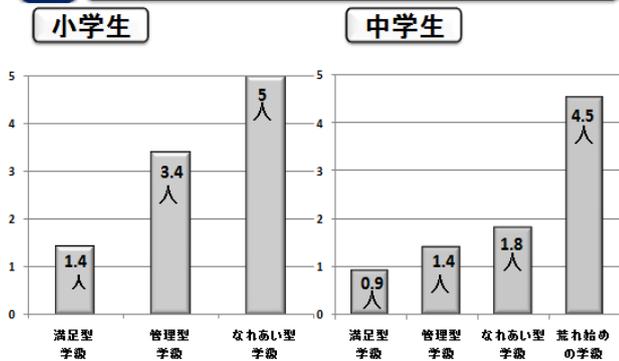
1 Q-Uが広がる社会的要因

- ①子どもの問題の多様化・潜在化
(外部からの観察の限界)
- ②早期発見・早期予防の必要性
(いじめや不登校等についての社会的関心の高まり)
- ③学校の説明責任

2 Q-Uの結果と学力との関係



3 Q-U学級タイプ別、いじめの出現率



児童生徒100人当たりの、「長期いじめを受けていて、とてもつらい」と訴えている割合
 引用文献: 河村茂雄「データが語るの学校の課題」図書文化社

4 Q-U を実施するねらい

1. 児童生徒理解のため

学級集団の理解と児童生徒個々の理解

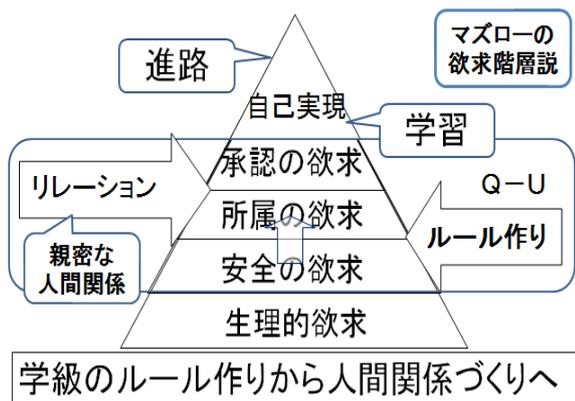
2. 校内連携を促進するため

学級・児童生徒支援についての校内連携

3. 校内支援体制づくりのため

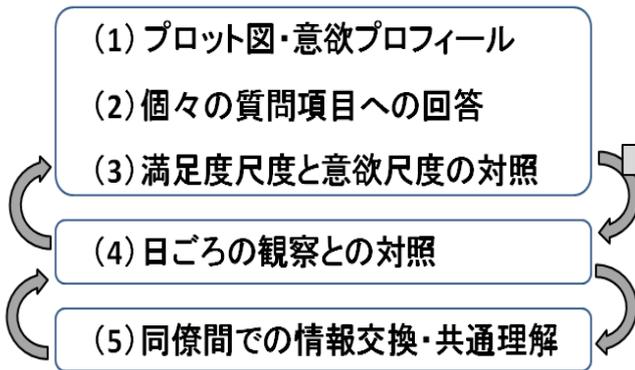
年間を通した支援サイクルと支援体制づくり

5 学級経営の2つのポイント



2. Q-Uによるアセスメントのポイント

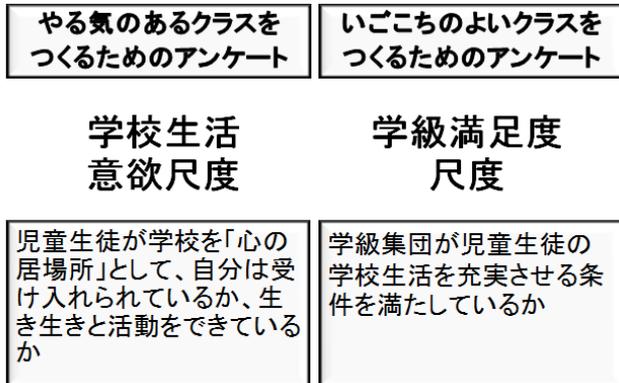
6 Q-Uによるアセスメントのポイント



Q-Uによるアセスメントのポイント

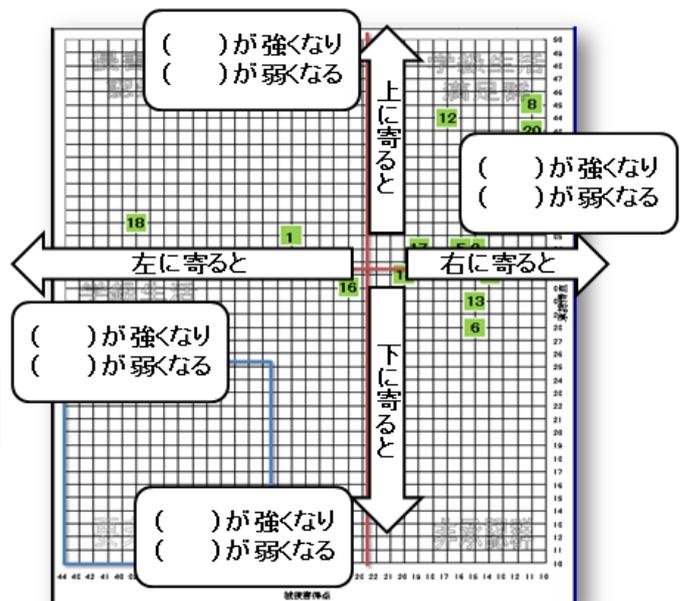
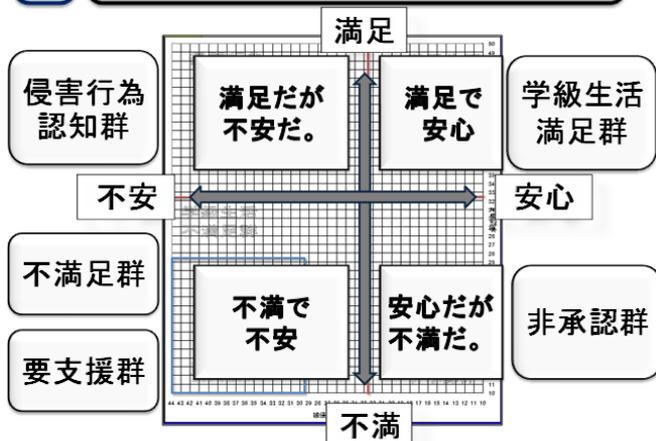
- (1) プロット図と意欲プロフィールの両方をよく見る
- (2) 回答一覧表を見て生徒個々の質問項目への回答をつかむ
- (3) 学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の結果を照らし合わせてみていく。
- (4) Q-Uの結果と担当教員からの日頃の観察と対照させてそのズレを見る
- (5) 特定の教員の理解にとどまらず、学年団の教員など教員集団で情報交換を行い、多面的な生徒理解を心がけるとともに生徒の支援方針について共通理解を図る

7 Q-Uの構成

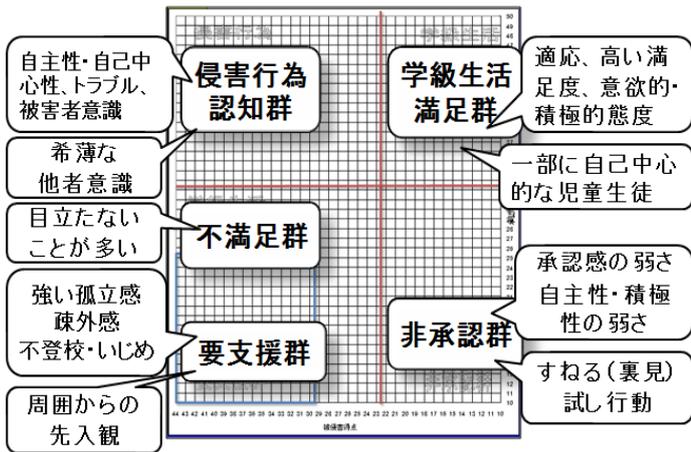


(1) プロット図・意欲プロフィールを見るポイント

8 プロット図の見方① 構成

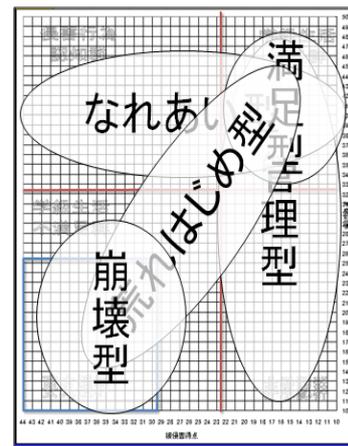


9 プロット図の見方② 児童生徒像



※レジュメ 8P 参照

10 プロット図の見方③ 学級像



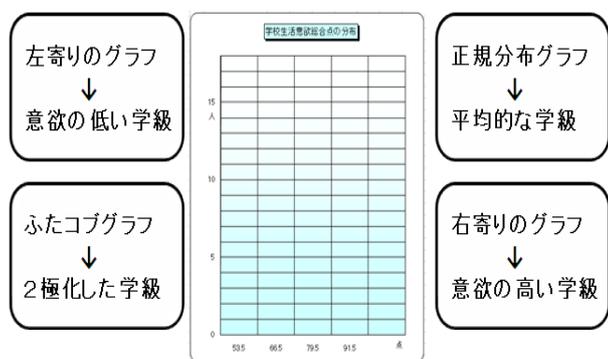
※レジュメ 9P 参照

ワーク1 学級満足度尺度のプロット図をどう見るか

学級満足度尺度のプロット図を見て、その特徴として気の付く点を下書きしてください。

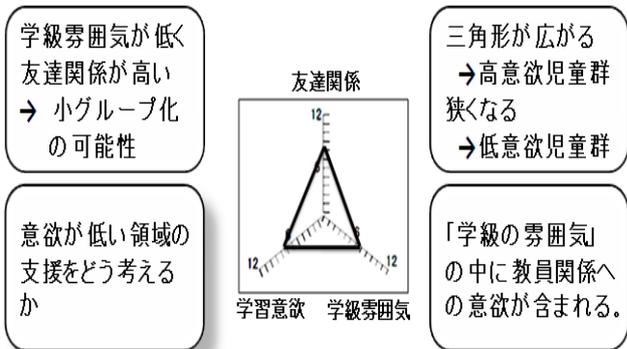
Blank dashed box for student notes.

11 学校生活意欲総合点分布の見方



学級全体のバランスをどう考えるか

12 意欲プロフィールを見るポイント



3つの意欲のバランスをどう考えるか

ワーク2 学校生活意欲総合点の分布図・学校生活意欲プロフィールをどう見るか

学校生活意欲総合点の分布図・意欲プロフィールを見て、その特徴として気の付く点を下書きしてください。

Blank dashed box for student notes.

(4) Q-Uの結果と(担任)教員の認知とのズレをどう見るか

16 情報共有のためのワークシート

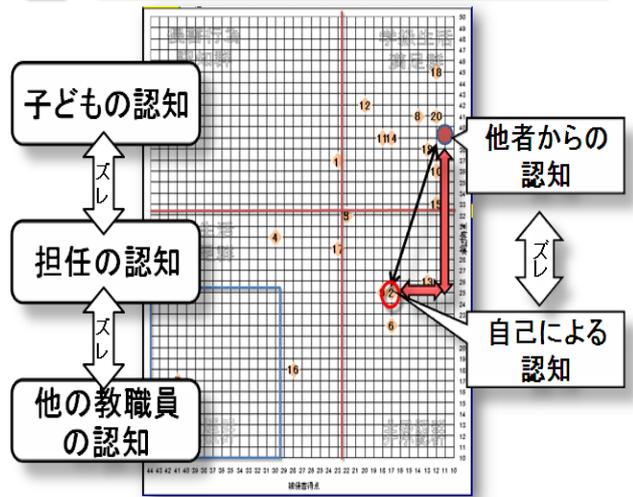
◇学級集団の概要 ・学級の構成・・・ ・学級編成の状況(持ち上がり等)・・・	学級の特徴
◇問題と感していること ◇学級のよき点	否定的側面と肯定的側面
◇学級の公的なリーダーの役割・生徒(番号と簡単な説明)	公的リーダー
◇学級で影響力(マイナスの力が働く)の大きい児童・生徒(番号と簡単な説明)	影響力のある子
◇態度や行動が気になる児童・生徒(番号と簡単な説明)	気になる子
◇プロット的位置が教師の日常観察から自然に感ずる児童・生徒(番号と簡単な説明)	疑問に感じる子
◇学級内の小グループを形成する児童・生徒(番号と簡単な説明)	小グループ
◇4群にプロットされた児童・生徒に共通する特徴 ・満足群 ・未発達群 ・悪習行為認知群 ・不満足群	4群の特徴
◇担任意向の方針 ・学級経営・・・ ・授業の展開・・・	学級経営方針

※レジュメ 10P 参照

ワーク 4

プロット図の位置とあなたの日常の観察とのズレが感じられる子どもをチェックして、あなたの日常観察から予想される位置をプロット図に書き込み、そのズレについて検討してみましょう。

17 プロット図上でズレをどう読み取るか

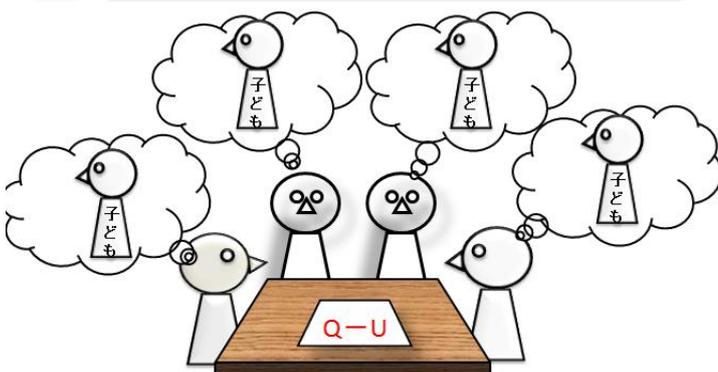


【子どもの回答と教員の認知(とらえ方)のズレを見るポイント】

- ① 教員から見るとプロット図のどの位置にいるとみられるか、描いてみる。
- ② その子どもにかかわる他の教員にも尋ねてみて、子どもに対するとらえ方の調整を行う。

(5) Q-Uの同僚間の情報交換と共通理解をどう図るか

18 児童生徒理解の共通言語のとしてのQ-U



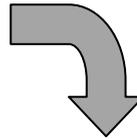
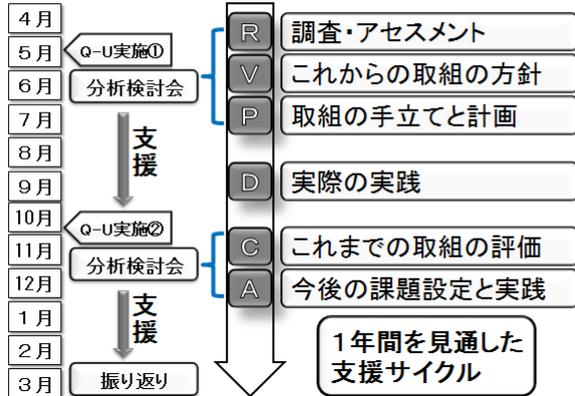
【Q-Uを用いた教職員間の共通理解】

- ① Q-Uの結果については担任だけの分析にとどめず、学年会や校内研修会で共有する。
- ② 学年会や職員会等で「気になる子ども」の名前が挙がったときには、Q-Uの結果と照らし合わせるなど、日常的な活用を工夫する。

3. 校内でQ-Uを用いた児童生徒理解をどう進めるか

19

支援サイクルづくりに向けたQ-Uの活用



Q-U 学級支援シート 記入例

○△ 小学校 5年2組

Research 学級集団の調査・アセスメント

児童数 (29) 人
男・女 (16・13) 人

1. 現在の学級集団のプロット図 (5月20日 実施)

満足群 5人 17%	不満足群 7人 24%
満足群 13人 45%	非満足群 4人 14%

2. 個別支援が必要な児童生徒の問題と考えられる点

① E 氏	気の合う友達がないと言って一人でいることが多く、不登校傾向。
② D 氏	落ち着きがなく、人を傷つける言動が見られ、注意されることが多い。
③ H 氏	物忘れや授業でよく寝落ちしているので承認感ほも高いと思われる。
④ O 氏	陸や文句を言うことがあり、よく不満をもち、周りを巻き込む。
⑤ F 氏	ふだんは無気力なことが多い。E氏と一緒にいってA氏をからかう。

3. これまでの取組: これまで力を入れてきた取組を3つあげましょう。あなたから見てその取組の効果について、次の1~5のうち一つを選んでください。
(5 十分できた 4 だいたいできた 3 わからない 2 あまりできなかった 1 十分なかった)

チャームが壊った着替えし、授業中は静かにする学級の雰囲気を作る。	5 (4) 3・2・1
人を傷つけるような言動はしない学級づくり。	5・4 (3) 2・1
子どもへの目線からの肯定的な声かけ。	5・4・3 (2) 1

Vision これからの取組の方針

1. 目指したい学級集団のプロット図

2. 伸ばしたい意欲: 次の実施に向けてどの意欲を伸ばしていこうと思えますか。(○で囲む)

3. 支援のバランス: 次回実施時までに次の2点についてどのようなバランスをもって取り組めますか。

ルールづくり

Plan 具体的な取組の手立て

Do 実際の取組

① 日常の学級活動
※校行事を利用し、一人一人に役割を持たせ、役割を遂行することによって学級集団への帰属意識を高める。

② 授業
※小グループで問題解決型の学習を取り入れ、終わりの時間には振り返りの時間をとる。

③ 特別活動・行事
※特活の時間に短時間でもできる SGE のエグザサイズを継続的に取り入れて人間関係づくりに取り組む。

④ 校内・校外連携: 保護者対応
※支援が必要な子どもについて家庭との連絡を定期的に。(個別支援)
※定期的に個別面談を行い、子どもの気持ちに耳を傾ける。
※機会を捉えて肯定的な言葉がけをする。

⑤ 目線から家庭との連絡を取り合う。個別面談だけでなく、グループづくりをする。

⑥ トラブルが起きたときには必ずすぐに個別面談を行い、落ち着かせる。

⑦ 個別面談などでじっくり話を聞き、家庭での様子を再確認する。

⑧ トラブルが起きた時に焦らずじっくり話を聞いてみる。

⑨ 学習への個別支援を軸に、放課後などに複数の職員でかかわりを行う。

Check 取組についての評価

1. 2回目実施時の学級集団のプロット図 (10月15日 実施)

満足群 4人 14%	不満足群 3人 10%
満足群 17人 59%	非満足群 5人 17%

2. 前回と比べてどのような変化があったか。
※まだまだ不十分ではあるが行事を通してリーダーの役割を果たすことのできる子どもが現れ、少しずつ学級としてのまとまりが出てきた。自分から積極的に話しかけてくる生徒が少しずつ出てきた。また、傷つける言動があっても注意したらやめるようになってきた。

Action 今後の取組に向けて

※教師からの目線からの肯定的な言葉がけについて気をつける。SGEについては特活の時間に継続的に実施するのは無理なので、授業やRHRなどの機会を用いる。①の子どもについては、家庭内の様子を再確認もわかってきたので、今度は家庭との連絡を密にしていきたい。

©高知県心の教育センター

- ① 学級の現状の原因を、教師個人のパーソナリティではなく、生徒の実態と指導法のミスマッチに求める。
- ② 事例提供したクラス担任を支援することができるように、チームワークを発揮して事例検討に取り組む。
- ③ 「日々の実践の中でできること」を、生徒と教師の実態に合った、具体的な行動レベルで考える。

Q-Uを使った事例研究法「K-13法」

▶▶ 事例提供者による事例の発表

参加者はプロット図にマークしたり、内容を書き込む。

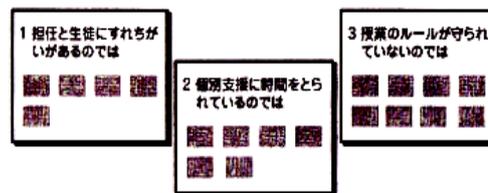
- ① 学級のリーダーを説明します。
- ② 配慮を要する子どもを説明します。同時に、プロットされている位置が予想外の子どもがいたら説明します。
- ③ 子どもたちのおもなグループを説明します（グループの特徴、リーダーについても説明する）。
- ④ 学級の問題と思われる内容を説明します。
- ⑤ 参加者は事例提供者に疑問点・確認したい点を質問し、答えてもらいます。



▶▶ アセスメント

- ⑥ 参加者（事例提供者も含めて）が、考えられる問題発生・維持の要因を、できるだけ多くカードに書きます。
- ⑦ 全員のカードを出し合い、似た内容のもの同士を集めて画用紙に貼りつけ、それぞれに小見出しをつけます。

- ⑧ カードの貼られた画用紙を、重要だと思う順番に並べます。そう考えた理由を発表し合い、全員で協議して、一応の統一見解・仮説をつくります。
「私は～だから～と思う」という、アイ・メッセージで発表します。



▶▶ 対応策の検討

- ⑨ ⑧で考えた問題の要因に対する、解決法をできるだけ多くカードに書きます。抽象論ではなく、具体的な行動レベルで記述し、事例提供者が現状の力量で、現実的に取り組める内容にします。
- ⑩ ⑨と同じように整理します。
- ⑪ ⑩と同様に順番をつけ、話し合って統一の対応策をつくります。目的地を明確にし、1カ月後のサブゴールも明確にします。
- ⑫ 事例提供者が不安に思う点、懸念される問題点について、対処策を確認します。

▶▶ 結論と決意の表明

- ⑬ 事例提供者が、取り組む問題と、具体的な対策をみんなの前で発表します。全員の拍手をもって終了します。

【フォローアップ】

1～2カ月後に、再びQ-Uを実施し、ポジティブな変化が認められない場合は、再び同様の会議を実施します。

※ 河村茂雄「学級づくりのためのQ-U入門」

引用・参考文献

- 河村茂雄「学級づくりのためのQ-U入門」図書文化社
 河村茂雄「データが語る①学校の課題」図書文化社
 河村茂雄「学級集団づくりのゼロ段階」図書文化社
 河村茂雄「授業づくりのゼロ段階」図書文化社

1. 4つの群にプロットされた児童生徒の特徴と対応のポイント

侵害行為認知群

- ・学級生活に意欲的に取り組む。
- ・自己中心的な面があり、がんばるほど他の子どもたちとトラブルを起こすことがある。
- ・いじめ被害を受けている可能性がある。

- ・全体指導の中での個別対応（人間関係）
- ・トラブルが起きた時、理由や相手の気持ちを考えさせる。（他者の気持ちを考えさせる視点や社会性の育成）
- ・いじめ被害への対処

承認得点

学級生活満足群

- ・学級内に居場所がある。
- ・学習意欲があり、積極的に活動できる。
- ・友人も多い。

- ・全体指導
 - ・現状をより快適に維持でき、より広い領域で活動できるよう援助
 - ・子ども主体の活動を多く取り入れる。
- * 満足群以外の子どもへの意識的な

被侵害得点

学級生活不満足群

- ・いじめや悪ふざけを受けている可能性が高い。
- ・不安傾向が強い。孤立感がある。
- ・不登校になる可能性がある。

- ・個別指導や面接（教師との1対1の信頼関係から）
- ・チームでかかわる
支援会を実施し、子どものよさや課題を確認し、具体的な支援策をたてて実施する

非承認群

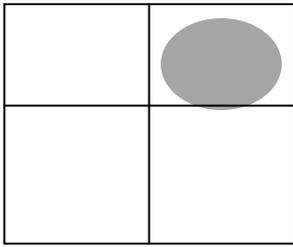
- ・学級内で認められることが少ない。
- ・不安はないが、活動意欲が低い。
- ・学習の定着が低い可能性がある。
- ・目立たない。

- ・全体指導の中での個別対応（学習）
- ・級友から認められるような場面設定
- ・見守っているよという教師からのメッセージ（多様な評価の視点）
- ・学習の援助

要支援群

2. 学級満足度尺度の分布の状態から見た学級集団の特徴と対応のポイント

① 右上に集まった状態：



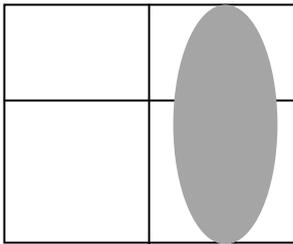
【特徴】

- ・ 多くの子どもが学級生活に満足している状態
- ・ クラス内のルールの強さ
- ・ クラスでの主体的、積極的な活動
- ・ 親密な人間関係

【対応のポイント】

- ・ 基本的にはこのままの学級経営でよい
- ・ 質を高める
- ・ 学級満足群以外の児童生徒への意識的な支援
- ・ 徐々に子ども主体の活動へ

② 縦に伸びた状態



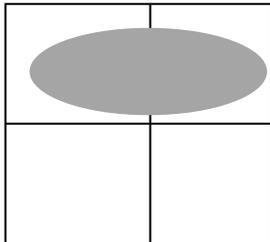
【特徴】

- ・ クラス内のルールの強さ、トラブルの少なさ
- ・ 学習や活動の個人格差
- ・ 希薄な人間関係
- ・ 教師からの影響力の強さ
- ・ しらけがちな傾向
- ・ 人間関係の形成が不十分で、意欲に欠ける面がある

【対応のポイント】

- ・ 多様な評価の観点を持つ
- ・ 周囲からの承認場面
- ・ 役割を越えた本音と本音の交流
- ・ 教員の自己開示

③ 横に伸びた状態



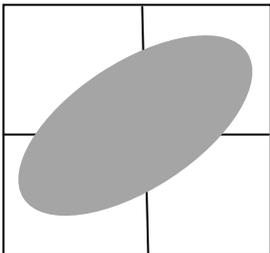
【特徴】

- ・ 自由でのびのびした雰囲気
- ・ クラス内ルールの弱さ、トラブルの多さ
- ・ 授業中の私語
- ・ 小グループ化
- ・ 特定の生徒がクラスの主導権

【対応】

- ・ 簡単なルールを確実に守る取組
- ・ ルールを守れたときの肯定的評価
- ・ トラブルがあったとき、今後どうすればいいかを検討

④ 斜めに伸びた状態：



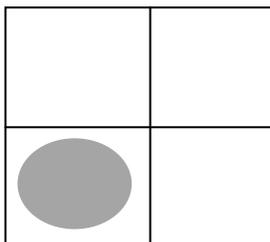
【特徴】

- ・ 子どもの満足度の格差
- ・ ②や③の状態から移行しやすい

【対応】

- ・ ルールのリセット（活動の時のしっかりとした約束）
- ・ 少人数からのリレーションづくり
- ・ 全体的な指導と個別の支援

⑤ 左下に集まった状態



【特徴】

- ・ 学級集団としての活動が困難
- ・ 相互の不信感・不安
- ・ いじめ、不登校へ

【対応】

- ・ 全体的な指導は当面難しいと捉える
- ・ まずは教師と1対1の信頼関係から
- ・ TT、合同授業
- ・ 保護者会
- ・ 2人組から4人、8人と学級を再建していく

第1回 Q-U を用いた支援会のための報告シート

(記入日 23年 5月 25日)

①学級集団の特徴		2年 3組 計 25人	
長所	明るく活発。気分にもらがあるものの、やる気があるときは集中力がある。		
課題	はじめがつきにくく、ルールが守れない。教科によって授業中騒がしいときがある。 基礎学力が身につけていない生徒が数名いる。		
②学級担任としての学級経営や授業展開などの方針			
人も自分も大切にでき、自由に言いたいことがいえる学級にしたい。また、主体的に授業に参加し、落ち着いて授業に取り組むことができるようにしたい。			
③学級の公的なリーダー（「学級委員」など）出席番号と簡単な説明			
No	生徒の状態		Q-Uの結果
⑬	学級の代表委員としてクラス会などの司会をしているが、今ひとつリーダーシップを発揮できていない。		不満足群
⑳	人前に立って全体をリードするのは苦手だが、現実的な対応ができ、学級内の人間関係を調整する力がある。		満足群
④学級の中で影響力の大きい生徒（インフォーマルなリーダー）出席番号と簡単な説明			
No	生徒の状態		Q-Uの結果
③	常に仲間の中心であり、ムードメーカーであるが、時々調子に乗りすぎるところがある。		満足群
⑰	言動による影響力が強く、自分の思いを通すところがある。		非承認群
⑤行動や心理面で気になる生徒（出席番号と簡単な説明）			
No	生徒の状態		Q-Uの結果
①	わがままな言動が見られる。		非承認群
⑤	昨年度、学級の中で仲間はずれにあってきたことがあり、周囲に気を遣う。		侵害行為認知群
⑫	自分に自信があるが、時々人がいやがることを平気で言い、傷つけられる生徒がいる。		満足群
⑱	家庭の人間関係にトラブルが多く、その影響を受けて不安定になりやすい。		不満足群
⑥プロットの位置が教師の日常観察からは疑問に感じる生徒（出席番号と簡単な説明）			
No	予想位置	実際の位置	説明
⑩	満足群	不満足群	授業にまじめに取り組んでおり、仲の良い友達とよく一緒にいる。
⑪	満足群	非承認群	周囲からの評価が高く、成績もよい。
⑦学級内で小グループを形成する子ども（小グループ内の生徒の出席番号と簡単な説明）			
② ④ ⑩ ⑳		何事にも積極的・前向きに取り組む。	
⑫ ⑰ ⑱		⑰を中心にグループで行動することが多く、時に乱暴な言動が目立つ。	
⑧4群にプロットされた子どもに共通する特徴			
満足群	自分が表現できているが、中に自分勝手な子がいる。		
非承認群	静かに授業に参加できている。		
侵害行為認知群	被害者意識が強く、何かあると、自分以外の人のせいにすることが多い。		
不満足群	休み時間も一人でいることが多い。		